

平成29年度第3回総合教育会議 主な意見

議事(1)子どもたちが困難を乗り越えて生きていくための力の育成～「不登校」に焦点を当てて～	
金本委員	学校では、「不登校対策支援チーム」の設置など、当会議の協議結果が現実的・具体的なものとなったことをしっかり受け止めるとともに、「千葉県版不登校対策指導資料集」を活用するなどして、不登校対策に積極的に取り組んでもらいたい。
内藤教育長	教職員の指導力の向上、各学校における不登校対策の充実、子どもたちが健やかに成長できる環境の充実に狙いをとじてまとめた「千葉県版不登校対策指導資料集」など、本会議の協議結果である不登校対策の取組を最大限に生かして、不登校で苦しむ子どもを1人でもなくすため、取り組んでいく。
議事(2)教員の資質向上について	
金本委員	<p>教員は、子どもたちの抱える課題を直視し、理解し、子どもたちが自分で解決できるような力を身に付けさせるような教育活動をしていくべき。子どもたちの抱える課題としては、①生きる目的や目標を失っている ②自らルールを作り出す力に欠けており、社会のルールに対応できない ③自分で考え、伝え、表現する力に欠けている ④我慢したり待つことを知らないの4点を挙げたい。</p> <p>子どもは教員集団の中に大人社会を見て、自ら育っていく存在である。このことを教員が理解して、日々の教育活動に当たる力を磨いていく、そのために自らを見つめ、絶えず研究と修養に励んでいく必要がある。</p>
京谷委員	<p>スポーツ界やビジネス界などから講師を招き、これまでとは違った角度から研修を行うなど、研修の内容を見直していくべき。</p> <p>教員自身の目的・目標を明確にし、情熱を持って取り組んでいくために、ストレスやプレッシャーに打ち勝つ強い心を身に付け、目標設定、集中力、コミュニケーションなどを学ぶことのできる「メンタルトレーニング」を研修に盛り込んでいく必要があるのでは。</p> <p>新任から3年目(成長期初期)頃までに自らの教員像が出来上がってくると思われるため、この段階の研修をより充実させるべき。</p>
佐藤委員	<p>教員に求められているものは多くなっているが、教員の業務が見直され、整理されると、自ら興味ある分野の研修の充実などライフワークバランスの先陣として生徒たちへの手本にもなり得る。</p> <p>教職員のメンタルヘルス不調による休職者は一般労働者より多い状況だが、その復職支援について工夫を重ね、有能な人材を復職に導いていけるとよい。また、教職員が危機と感ずる事柄として、「人間関係」がその多くを占めるため、自ら仕事上の人間関係の問題を解決していく力を身に付けることが資質向上にもつながる。</p>
井出委員	<p>育成指標の「広い視野と学び続ける意欲」という項目が大変重要である。大学生へのアンケート結果から、学び続け、教員として向上していきたいという謙虚な意志の下で、子どもたちとともに学びを実践している教員が信頼を得ていることがわかる。また、国が教育の指針として示している「社会人基礎力」や「学士力」とは、獲得した知識を活用する人間力という意味であり、「学び続ける意志の大切さ」はあらゆる場面で説かれている。</p> <p>日本の児童生徒は知識を活用する論理的な思考や分析、統合する能力、すなわち「知性」に乏しい。まずは、教員自身が知性を磨き、教歴を積むに従って、より高度な知性を身に付けていく必要がある。この意味で、新たな研修履歴システムに期待している。</p>
岡本委員	<p>研修も大切だが、採用における取組は大変重要である。自分の会社では、採用試験として、竹とんぼをつくらせたり、テニスボールを描かせたりして適性を見ているが、教員採用についても、実際に児童生徒と話をさせるなど、事前に準備が不可能で、かつ、教育に対する情熱を見ることができるよう即席の試験を考えていってもらいたい。</p> <p>教育行政全般について、なるべく複数年計画で捉え、PDCAのAまで行う、すなわち計画した事項を1年間実施し、効果を振り返り、それを踏まえて次年度に改善した内容を実施していく、ということを進めてもらいたい。</p>
内藤教育長	<p>育成指標の作成に当たって、本県は①教員養成課程のある大学に主体的に関わっていただいた ②「採用」と「研修」の一本化の基盤をつくり、更なる連携を図った ③県と政令市の千葉市が連携して作成した という3点で他自治体と比べても、十分工夫を凝らしたものだと考えている。</p> <p>教員の業務改善と資質向上を同時にうまく進めていく必要がある中で、まずは、研修を効率的に行うために、研修履歴システムやeラーニングを活用するとともに、研修そのものに、学校における会議の改善や家庭・地域の力の活用など、学校運営における効率化、業務改善につながる内容を取り入れていく必要がある。</p>
森田知事	<p>真面目で熱血漢、情熱のある新人の教師が壁にぶつかった時、上司にあたる校長や教頭が、自らの経験談を交えるなどして指導することにより、悩みを乗り越えていけるのではないかと。</p> <p>家庭が、学校や教員に甘えがちになっているのではないかと。例えば不登校の問題であれば、まず大切なのは、家庭が我が子の状況をしっかり把握し、それを学校に伝えることである。そのことによって、教員も的確な対応をすることができると。全てを教員任せにすると、教員の挫折という残念な結果にもつながる恐れがある。</p>
議事(3)その他	
金本委員	来年度の本会議のテーマとして、本県ならではのオリンピック・パラリンピック教育について意見交換し、実践につなげていきたい。また、そのことをとおして、県内の地域によっての相違や特徴についても議論を広げ、深めていきたい。